

おかあさんの被爆ピアノ



Introduction

昭和20年8月6日8時15分…

広島に投下された一発の原子爆弾。
街と共に一瞬にして消えたたくさんの命。

そうした壊滅的な状況の中で
奇跡的に焼け残ったピアノ。被爆ピアノ…
それを託された広島の調律師・矢川光則さんは、
修理・調律、自ら4トトラックを運転して
全国に被爆ピアノの音色を届けて回ること。

「70年経って被爆体験者は段々いなくなっていて、
あと10年したら殆どいなくなる。けれど、被爆ピアノ
は、その音色でずっと原爆のことを伝えていくことが
出来る」と矢川さん。

被爆から75年を迎える今、
ピアノの音色で被爆の記憶を伝えていきます。



「世代を超えて伝えられるメッセージと調べ。
忘れてはいけない大切な想い。

沢山の若者たちに観てもらいたい、
心が優しくそして強くなる映画だ。」
プロスキーマー
タラク記念国際高等学校 校長
三浦雄一郎

75年目のいま、蘇った音色が私たちに語りはじめる



昭和20年8月6日に広島で被爆したピアノを持ち主から託された調律師・矢川光則(佐野史郎)。彼自身も被爆二世。
爆心地から3キロ以内で被爆したピアノは被爆ピアノと呼ばれる。
矢川は、現在数台の被爆ピアノを託され修理、調律して、それを自ら運転する4トトラックに載せて全国を回っている。
東京で生まれた江口菜々子(武藤十夢)は大学で幼児教育を学び幼稚園教師を目指しているものの将来について漠然としている。
被爆ピアノの一台を母・久美子(森田瑠子)が寄贈していたことを知った菜々子は、被爆ピアノコンサートに行き、矢川と出会う。矢川を通して被爆ピアノ、広島のことを考えるようになり、祖母のことを知るうちに自身のルーツ探しをしていく。

母・久美子はどうして広島から出て行ったのか?
祖母・千恵子が菜々子に伝えたかったことは?
調律師・矢川がなぜ被爆ピアノを伝える活動をしているのか?
菜々子はルーツを辿り、被爆ピアノの活動を辿りながら次第に何かを見つけていく…。

Story



戦後75年目。被爆から75年。自分を含めて今社会を担っている大人たちの殆どが戦後生まれになっています。戦争を知らない僕らは平和を当たり前のように享受してきました。しかし、当たり前だと思っていた平和は当たり前ではないことをここ数年の世界情勢の不安、国内で度重なり起こる災害などから強く感じるようになりました。今更ながら平和をとはずっと維持しようと思いついていないと平和ではなくなってしまうのではないかと思うようになっていました。そのためには僕らが後進の若い人たちに語り継がなくてはならないと強く思うようになりました。そのきっかけは11年前に被爆ピアノのドキュメンタリー番組をつくらせて頂いたことでした。取材をさせて頂くうちに原爆が落とされたことや平和について考えるきっかけになるような映画をつくりたいと思いました。忘れないこと、記憶し続けること、そして伝えていくこと、そうしたことを思い起こして頂くような映画になっていましたら本望です。(監督 五藤弘弘)



12月26日(日) 開場は、各上映開始時間の30分前です。

①10:30 ②14:00 全席自由席

三原リージョンプラザ文化ホール

前売り券: 一般 1200円(当日1500円)

前売り券: 3歳~高校生 800円(当日1000円)

前売り券販売場所 ①・②共通券

三原リージョンプラザ、フジグラン三原、うきしろロビー 他

主催:「おかあさんの被爆ピアノ」三原上映実行委員会
三原リージョンプラザ・三原市武道館 指定管理者(株)サービスセンター

上映終了後は、被爆ピアノ演奏と谷本惣一郎さんのミニコンサートをお楽しみください。(演奏予定時間20分)



谷本 惣一郎さん

広島県呉市在住
国立音楽大学声楽科卒業
シャンソンコンクール歌唱賞を機に初心者の為のシャンソン、ボーカル、ボイストレーニング教室を開講している。また、2017年より毎年、シャンソンの祭典「パリ祭」に出演。

映画「おかあさんの被爆ピアノ」《被爆ピアノコンサート》のシーンに出演。

お問合せ/ 0848-64-7555
(三原リージョンプラザ総合受付)